

上島町立学校統合準備委員会 第1回給食部会 協議記録

- 1 開催日時 令和8年8月27日(木) 18:00～19:15
- 2 開催場所 生名地域交流センター
- 3 参加者 亀山 秀麿、白石 建彦、村上 教美、馬場 政典、岡本 佳洋
藤野 佑香、バード理衣、井出 和宏、中野 美幸

4 協議内容記録

(1) 部会長の選出

弓削小学校長 亀山 秀麿 を選出

(2) 給食部会の目的・検討事項

- 小・中学校への給食提供を今後どのように行うか。
- 現在稼働している2か所の給食センターをどのように活用するか。
- 給食センターの施設・設備、調理能力、老朽化等の課題。
- 給食の配送方法及び配送時間。
- 災害等の非常時における給食提供体制。
- 将来的な給食センターの集約・改築・新築等の方向性。

(3) 現在の給食センターの状況

岩城給食センターでは、現在、およそ160食程度の給食を調理している。施設・設備については比較的新しく、下処理室が調理室と分かれているなど、衛生管理を行いやすい構造となっている。

一方、現在の設備のままでは、将来的に全学校分の給食を調理するには調理能力が不足する可能性がある。一時的に調理数を増やすことは可能と考えられるものの、長期間にわたって大幅に調理数を増やした状態で運用することについては、設備面・作業面・時間面で負担が大きい。

弓削給食センターでは、小・中学校合わせて約310食の給食を調理している。

一方、建物は築30年以上経過しており、施設の老朽化が課題となっている。特に、下処理室が狭く、野菜の洗浄や異物確認等を行うスペースが十分ではない。また、施設の日当たりが良すぎるため、夏場には調理室内の温度が高くなることから、調理員の労働環境についても課題がある。

(4) 給食センターを1か所に集約することについて

将来的な児童・生徒数の減少を踏まえると、2か所の給食センターを長期的に維持することは、維持管理費や光熱水費、人員確保等の面から効率的ではない。そのため、将来的には1か所の給食センターに集約する方向が望ましい。

ただし、1か所に集約する場合には、以下のような課題がある。

- 必要な調理能力を確保できる施設・設備
- 調理員の確保
- 配送車両及び配送人員、配送時間

- 魚島への船便との調整
- 大雨、台風、道路・橋梁の通行不能等の災害時対応
- 建設用地の確保
- 建設期間中の給食提供

(5) 弓削給食センターの改修・改築について

弓削給食センターを今後も使用するのであれば、老朽化への対応として改修・改築等を検討する必要がある。特に、下処理室の改善、空調設備の強化、施設内の区画・衛生管理環境の改善などが必要である。

一方、既存建物の構造や天井高等を考慮すると、大規模な改修を行うよりも、新築した方が長期的には合理的となる可能性もある。また、既存施設を改築する場合でも、現在の建物の構造・強度等について調査する必要がある。

施設の耐震性や構造上の問題については、専門的な調査を行った上で判断する必要がある。

(6) 新施設建設時の課題

新しい給食センターを建設する場合、現在の給食センターを稼働させながら、新たな場所に新施設を建設する方法が理想的ではないか。既存施設を取り壊して同じ場所に新設する場合、建設期間中に給食を提供するため、別の給食センターで全食数を調理する必要があるが生じる。

しかし、岩城給食センターだけで全校分を長期間調理することについては、調理能力や作業時間等の面から困難が予想される。そのため、現在の施設を稼働させながら別の場所に新施設を建設する方法についても、候補地の確保を含めて検討する必要がある。

(7) 給食の配送について

岩城給食センターに給食を集約した場合、魚島への配送距離及び船便との関係が大きな課題となり、給食を早い時間に完成させ、積み込み・配送を行う必要がある。

また、配送車両の台数や往復に必要な時間についても検討が必要である。

(8) 災害等の非常時対応について

1 か所の給食センターに集約した場合、災害等により道路や橋が通行できなくなった際、給食を配送できなくなるリスクがある。特に魚島への配送については、船便にも影響を受けるため、通常時の効率性だけでなく、災害時における代替手段を含めた給食提供体制を検討する必要がある。

(9) 協議の方向性

令和 10 年度については、2 か所の給食センターを活用して給食を提供する。

(10) 第 2 回給食部会の検討事項

令和 11 年度については、児童・生徒数の変化に応じて、2 か所の給食センターをどのように使い分けるかを改めて検討する。

その後、児童・生徒数の減少により岩城給食センターでも必要な食数を調理できるようになった段階で、弓削給食センターの改修・改築等を進め、最終的には 1 か所に集約する方向について検討する。